

第2回帯広市農業・農村基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：令和6年10月18日（金） 18:27～20:36

場 所：帯広市農業技術センター 会議室

出席者：委員9名（別紙名簿のとおり）、事務局12名

※委員2名欠席（窪田さと子委員長、吉田速男委員）

<概要>

令和6年8月19日から9月30日までに実施した農業者アンケートの結果を報告するとともに、第6期帯広市農業・農村基本計画（改定原案たたき台）をもとに、計画の指標設定の考え方や原案の改定内容について協議したものを。

1 開会

2 報告

(1) アンケート結果の報告について

事務局より、配付資料中「第6期帯広市農業・農村基本計画（改定原案たたき台）」及び「2024（令和6）年度農業経営等に関するアンケート報告書」に基づきアンケート結果の報告を行った。

（質疑等なし）

3 議題

(1) 第6期帯広市農業・農村基本計画（改定原案たたき台）について

事務局より、配付資料中「第6期帯広市農業・農村基本計画改定原案たたき台の改定概要について」、「第6期帯広市農業・農村基本計画（改定原案たたき台）」、「第6期帯広市農業・農村基本計画改定原案たたき台の改定整理表」、「改正食料・農業・農村基本法のポイントと第6期帯広市農業・農村基本計画改定原案たたき台の対応一覧」、「第6期帯広市農業・農村基本計画の指標（目標値（2029（令和11）年度）設定の考え方）について」及び「第2回帯広市農業・農村基本計画検討委員会に向けた事前意見整理表」に基づき、それぞれ説明を行った。

① 第2章 1—（3）気候変動の進行

<委員>

近年の気候変動に対して、特に既存の品種では従来の技術・やり方による対応が難しくなっていることを実感している。農業技術センターや十勝農業試験場が新品種の試験研究に取り組んでいると聞いたので、その取組をこの部分に記載した方がより明確に伝わるのではないかと。

<委員>

気候変動による影響は馬鈴しょ等の作物に出ている。気温が高いことへの対応として実験的に肥料を減らしてみたが十分な収量を確保することができた。品種でカバーできるのかは不確実であり、試験結果が出揃ってからでは遅いので、予測でも良いから効果がありそうな取組を情報発信していくことが必要になる。

<委員>

温室効果ガスの排出抑制が求められる中で、畜産分野ではメタンガスの排出が問題視されている。5年、10年先のことを考えて、農業分野においても気候変動に対する取組を考えなければならない。

<委員>

アスパラは燃やさないとう菌が残ってしまうので、畑を綺麗するためにどうしても燃やさなくてはならない。

<委員>

4ページ(3)に書くのが良いのか、あるいは具体的な施策として、例えば10ページの1-(1)②「自然災害の被害軽減」、11ページの2-(1)⑤「営農技術の向上のため、試験研究の実施」、この辺りに盛り込むことが良いのか、盛り込むことは良いと思うので、その辺の検討が必要。

<事務局>

意見の趣旨は、4ページの「気候変動の進行」において、市で既に取り組んでいるものがあれば記載した方が良いとの意見であり、農業技術センターでは今年度甜菜の褐斑病に対応した試験を実施している。よって、計画策定以降の新たな取組として「気候変動に対応した栽培技術試験に取り組んでいる」といった内容を追記したい。また、気候変動の対応に関する施策については、10ページ(1)土づくり支援、11ページ「営農技術の向上のための試験研究の実施」に既に包含されているものと考えている。

畜産分野のメタンガス排出抑制の取組は、10ページ(3)環境に配慮した農業の推進において計画策定時から進めており、本項目に包含すると考えている。

以上から、4ページに気候変動に対する現状の取組を追記するが、気候変動に対応した施策の方向性については、既に包含されていると考えており修文はしない考え。なお、計画とは別に施策の具体の事業内容については、委員の意見を参考に内容を検討していきたい。

② 第3章 指標⑤ 農畜産物輸出量

<委員>

前回の委員会において、平成30年度の基準値3,743tに対し、令和5年度の現状値3,029tを考えると、令和11年度の目標値4,300tの達成は難しいのではないかと話をしたが、他の委員から目標値を減少させることはどうなのか、国の施策と合っているのかと話があった。実際のところ輸出先からのニーズは高く、輸出増が望まれているので、安定的な収量が得られる栽培方法や品質向上の取組を進めることを前提として、令和11年度の目標値は4,300tを設定してはどうか。

<委員>

輸出は相手があることなので簡単ではないが、委員の言うとおりの4,300tを目標値にした方が国の方向性と合うと思う。

<副委員長>

現実的に難しいかもしれないが目標値として掲げてはどうかという意見だが、各委員の意見はどうか。

(「良いです」との発言あり)

<事務局>

地域一丸となって取り組んでいく意思表示ということも含めて4,300tに修正する。

③ その他各委員から寄せられた意見

<副委員長>

「第2回帯広市農業・農村基本計画検討委員会に向けた事前意見整理表」に記載された各委員の意見について、事務局より概ね改定原案たたき台に包含されていると説明があったが、意見等はないか。

(「異議なし」との発言あり)

(2) 帯広市の農業・農村における地域課題の解決に向けて

事務局より、「第2回帯広市農業・農村基本計画検討委員会に向けた事前意見整理表」及び「帯広市の農業・農村における地域課題の解決に向けて（検討委員意見集約版）」に基づきそれぞれ説明を行い、地域課題の解決に向けて議論を行った。

① 人口減少への対応

<委員>

事務局の説明内容に異論はない。特に農業の魅力アップの中の所得の増大は重要であり、十分な所得があることが担い手確保にも繋がるので大賛成である。

<委員>

十勝は後継者に困っていないという話もあるが現実には減ってきている。子どもがいる家庭の環境も、時代により考え方の違いがあると思うが、一昔前は塾や習い事をしている子どもは少なく、今はしていない子どもの方が少ないように感じる。昔のように子どもが後継者になるという考え方も変わってきている。そうした面からも人口減少・少子高齢化が進んでいく中で、自分たちが高齢者になっても働きやすい環境づくりに力を入れた方が良いと思う。

<委員>

長年農業に従事している高齢者と若手の農業従事者との交流機会を増やして技術継承ができる場を設けることで、若手の技術力向上に繋がると思う。

<委員>

国全体の出生率が低下する中で、どうすれば農村地域に人が戻って来るのか、新しく人を呼び込めるのかを考えたときに、他の委員の言われた所得増大と同様に、地域や農業の魅力をどう作っていけるのかが重要だと思う。今はどの業種も人手不足となっており、農業も企業と同様にどうやって人を育てていくのかを考えていく必要がある。農業に興味を持つ学生にどのように農業の魅力を伝えるか、魅力を伝える機会があれば良い。

<委員>

農村地域に人を呼び込む方法として、都市部の人に農業を知ってもらうことが必要だと思う。例えば都市部から修学旅行生を受け入れることで農業が職業の選択肢となった事例がある。そうした農業を知ってもらうきっかけづくりが重要。また、一昔前の「愛の国から幸福へ」のように、呼ばなくても来てみたくなるような帯広市をSNSで発信できれば良いと思う。

② 農業生産資材価格高騰への対応

<委員>

作物別・地域別の施肥基準があるが、夏場に本州並みの暑さが増えてきたことで、気温・地温による補正や施肥により対応できるレベルを超えてきている。施肥で対応ができないなか、個人個人で播種時期を試行するなどの対応をしなければ平年並みの収量を維持することができないと考えている。どんなに工夫しても必要な費用はかかるので、資材価格高騰対策と収量確保のための技術の確立や情報発信が必要と感じている。

<委員>

我が家の小豆も去年、今年とそれほど良くなかった。量が取れても質の良いものを作らないと厳しく、努力はしているがなかなか難しい。

<委員>

資料の意見集約版にある「コスト増への支援からの脱却」とは、栽培技術や施肥方法の工夫などによってコストを抑える努力をすることを意味していると思うが、土壌の質は地域によって全く異なるので、いくら自助努力をしても平均収量に満たない農家もある。

<委員>

基本的には安定的な収入を確保することが大切。ただ、現在の日本経済の中で農産物の価格転嫁をすぐに実現することはなかなか難しいと思うので、現状、生産現場で取り組めることは、いかに効率よく生産していくかが当面の資材価格高騰への対応になるかと思う。農協では土壌診断結果に基づいた適正施肥などの取組を行いながら対応している。

<委員>

飼料価格の上昇への対応として自給飼料の向上があるが、収量向上や作業の効率化には施設や大型機械が必要であり、補助制度がなければ次の段階に進まないと思う。

③ 気候変動への対応

<委員>

はじめは異端児のように扱われる新技術も、段々と全体に普及していくことが多いので、最初の発想が大切なことだと思う。

<委員>

従来通りの生産方法では厳しくなっている。地域によって土壌が異なるので、技術センターや農業試験場、優良生産者の事例など、多くの情報をまとめて紹介していくことが必要。また、ある製糖会社で病気抵抗性の高い甜菜の品種が開発されているが、企業間での垣根をなくし、自由に品種が選べるよう企業間でも協力してほしい。

<委員>

気候変動により5月から7月にかけて水不足により農作物の被害が発生している。気候変動に伴い畑地かんがいの重要性が増しており、大正地区においてかんがい整備が進んでいない場所があるので、国への要請をお願いしたい。

<事務局>

大正地区のかんがい事業は、札内川流域地区として令和8年度の事業化に向け、令和5年度から令和7年度にかけて、国が地区調査を進めているところであり、これが完了すれば帯広市内のかんがいは全て整備されることとなる。

(3) その他

事務局より、今回いただいた意見を踏まえて11月の市議会所管委員会へ計画改定原案の報告を行うこと、11月下旬から12月下旬にかけてパブリックコメントを実施すること及び成案までのスケジュール等について報告した。

以上

帯広市農業・農村基本計画検討委員会

委員名簿

(敬称略)

	氏名	選任区分	勤務先・所属・公職等
1	ヨシダ スミオ 吉田 速男	農業者及び農業団体を代表する者	帯広市川西農業協同組合 営農振興部長
2	イケダ ヒデキ 池田 英樹	農業者及び農業団体を代表する者	帯広大正農業協同組合 営農振興部長
3	ノハラ ユキハル 野原 幸治	農業者及び農業団体を代表する者	川西バイオマス株式会社 代表取締役 北海道指導農業士
4	スギモト ヤスコ 杉本 康子	農業者及び農業団体を代表する者	帯広市川西農業協同組合 女性部 部長
5	スドウ キョウスケ 数藤 恭輔	農業者及び農業団体を代表する者	北海道農業士
6	コモリ タカヒロ 小森 隆寛	農業者及び農業団体を代表する者	株式会社東桜ファーム 会長
7	ドウミ カオリ 道見 香織	農業者及び農業団体を代表する者	帯広大正農業協同組合 女性部 部長
8	サイトウ カズナリ 斎藤 一成	農業者及び農業団体を代表する者	株式会社斎藤農場 代表取締役 北海道農業士
9	クボタ サトコ 窪田 さと子	学識経験を有する者	国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学 准教授 帯広市農業委員会農業委員
10	サイトウ ミユウ 齊藤 実優	その他市長が必要と認める者	農業サークル「あぐりとかち」 代表 帯広畜産大学畜産学部畜産科学課程 食品科学ユニット3年
11	カワハラ ナリト 川原 成人	学識経験を有する者	北海道十勝総合振興局産業振興部 十勝農業改良普及センター 次長